



国际传播学系

新潟国際情報大学広報 第21号

(本校)〒950-2292 新潟市みずき野3丁目1番1号 tel 025-239-3111 fax 025-239-3690 E-mail somu@nus.ac.jp URL <http://www.nus.ac.jp/>
(新潟中央キャンパス)〒951-8068 新潟市上大川前通七番町1169番 tel 025-227-7111 fax 025-227-7117

留学での最大の幸運は、素晴らしい英語教師に出会ったことだ。考え方、考え方、感じ方、生徒との接し方、そしてお顔、何をどうってもパークエクトだ。今まで私が会ってきた先生の中でも、これほどまで尊敬できる先生はない。そして今、カナダの地で見たこと、感じたこと、教わったこと、考えたこと、味わったこと、全てが本当に尊いものだと実感している。英語の最後のテストで、二〇年後も覚えていられるであろう力大ダ留学の思い出の自由英作文を書くという課題が出た。そんな課題を出してくれたブライアンにも感動したし、そして、二〇年後でも三〇年後でも、忘れるわけがない。

二〇〇三年度の情報文化学科のアメリカ・ノースウエストミズーリ州立大学への派遣留学と情報システム学科のカナダ・アルバータ大学への夏期セミナーが、それぞれ夏期休暇中に実施されました。参加学生お二人に感想を書いていただきました。

今度は紅葉を見に行きたいです、カナダ

情報システム学科一年 小川 麻矢子

初留学、初海外、好きな英語、夢だったアメリカ。一ヶ月のアメリカ留学は本当にあつといふ間でした。それからのことのできない環境の中、全てが新鮮でした。そして国人。であったこと。日本人であることを意識した一ヶ月でした。世界中の国々からの留学生などたくさん的人に出会い、ともに学び、多くの刺激を受けました。語学に関しては、大切なのは英語力というよりも自分から「ミニミニーションをとろう」という姿勢なのだと思います。これはどこの地に行つても同じだと思います。見知らぬ人とも当たり前のようになれる「H.I.」と挨拶を交わす生活を終えるのは本当に寂しかったです。一ヶ月という期間はあまりにも短すぎましたが、世界を身近に感じることができるようになった留学は私の世界観を大きく広げました。この留学をひとつステップとして今後も努力していこうと思います。

情報文化学科二年 木村紘子



本学校法人の小澤辰男理事長、関根秀樹専務理事が、本学の提携校である慶熙大学（韓国）、北京師範大学（中国）を10月15日～19日の期間で訪問しました。慶熙大学では、趙學園長、趙總長はじめとする関係者との懇談をはじめ、本学から留学をしている学生の授業の観察及び懇談、施設見学がおこなわれました。また残念ながら本年度の派遣留学が中止となりました北京師範大学でも鄭副学長、楊歴史学部長をはじめとする関係者との懇談、施設見学がおこなされました。両大学で行われた懇談の席では、お互いの大学の取り組みについての情報の交換をはじめ、今後提携校としてより一層の交流を進めるための意見交換が積極的に行われました。訪問後、小澤理事長は「両大学ともその国を代表する大学であり、大変すばらしい環境であることを再認識した。このようなすばらしい大学で本学の学生が学ぶことができることは大変幸せなことだと思う。提携校には心より感謝したい。学生諸君には、是非、留学制度を活用して益々進む国際社会に対応する力をつけてほしい。大学としても提携校間の絆をより深めていきたい。」と話しました。

理事長提携校訪問



▲慶熙大学にて

III-タの反戦運動

●一年間の海外研究を終えて 情報文化学科助教授 越智敏夫 ●

「ヨーロク大学(マサチューセッツ)の国際高等学術研

究所(OCAS)の共同研究「国際紛争としての冷戦」に本学の海外研究制度も利用して参加してきました。個人テーマは「冷戦期における政治理論の比較研究」だったのだが、この研究をしてくるあたり、アメリカは冷戦というかいつくの熱い戦争を開始する。その意味でOCASの1年は良くも悪くも「アラバマの1年間」だった。

われわれ夫婦がマサチューセッツのアパートで生活を始めたとき、同時に夫婦が1年が過ぎ、関連した集会やイベントが全米各地で行われてこだ。マサチューセッツ・ジャパンセンター近くの大規模大学のなかではわざわざ国際貿易センター近く。大学の近くでも毎日のように集会が開かれていた。それに参加していくと、マスメディアで報道される他の地域のものよりも遙かに豊かなものである。なぜなら、そこには多くの人々が組織を構成して活動しているからだ。

ヨーロクは伝統的に民主党が強い地域である。なかでも特にマサチューセッツは60年代の公民権運動、学生運動という激動の中心となつた地域である。そのせいか近所での集会はほとんどがブッシュ批判を目的としたものだった。大手マスメディアがあれほどおもとに支持してしまったがいい感じであつたく扶持されていただけ。トロントの日、トロントの前に広がるワシントン広場で行われた集会も「アフガニスタンの人々をこれまで殺すな。イランを攻撃するな」と謹んでいた。その集会がとても印象的だったのは、その集会を企画したのが国際貿易センターで死んだ被害者の遺族のなかのグレーパーだったからだ。



▲約40万人が参加した2003年2月15日のニューヨーク反戦集会

著書

◎青淵正幸助教授
前川邦生・青淵正幸編著「例解所得税法入門セミナー」

◎小林元裕助教授
宋志勇主編「全球化與東亞政治、行政改革」天津人民出版社、2001年9月、共著

◎高橋正樹助教授
「製造業における株主価値の説明力」「工業経営研究」工業経営研究会、第十七巻、2003年9月。

◎西欧におけるクローバーフェリーと国民国家—国家の脱国民国家化政策の視座を求めて—「法学新報」、第二〇卷、四四、中央大学法学会、2001年8月。

◎藤瀬武彦教授
「日本人及び歐米人女性学生におけるボーダイマイスターの比較」「体力科学」、第五十一卷第四回、2001年8月。

◎張澤拓郎教授、小島昌也助教講師、佐々木桐子講師
「地域貢献としての新潟(金属加工・市場網)」情報処理学会、情報システム社会環境シンポジウム、2001年9月。

◎矢口裕子助教授
「性／愛の家のスパイ—Henry&Juneから読む個別分析」Nin's Japanese Daughters 第八〇期、日本英語学会、2001年10月。

◎佐々木寛助教授
「「ハイテク」における農村—都市移住の現状」日本国際文化芸術祭第一回全国大会、早稲田大学、2001年7月6日。

◎長坂格講師
「ハイテクによる移住—都市移住の現状」日本国際文化芸術祭第一回全国大会、早稲田大学、2001年7月6日。

◎佐々木寛助教授
「「ハイテク」による農村—都市移住の現状」日本国際文化芸術祭第一回全国大会、早稲田大学、2001年7月6日。

◎教員の活動

2003年7月1日から8月31日までの教員の研究活動で本人から提示があったものです。

China, University of Duisburg-Essen, Institute for International and Regional Economic Relations, Duisburg, Germany

◎近藤恒特任教授
「RRI-InP埋め込みによるEA変調器光吸収層へのZn拡散制御」第六四回応用物理学講演会、福岡大学、2003年8月11日

◎小畠山智志講師
「努力」「能力」意識が「平等」意識に与える影響」計量社会科学研究会、立教大学(池袋)、2003年9月1日

◎Heaney S. Beowulf 講義「新潟大学英文学会、新潟大学、2003年8月11日

◎佐々木寛助教授
「東洋の原助教授」、「能」意識が「平等」意識に与える影響」計量社会科学研究会、立教大学(池袋)、2003年9月1日

◎佐々木寛助教授
「「ハイテク」による農村—都市移住の現状」日本国際文化芸術祭第一回全国大会、早稲田大学、2001年7月6日

ゼミ紹介

情報文化学科 熊谷 順ゼミ

わたくしの研究分野は、国際法學です。したがつて(というより、なれば強制的に)、ゼミナーの学生たちには、なんらかの形で「法」とからんだトピックを選択し、研究報告してもらっています。とはいっても「法的な濃度の濃さ」は学年には比例します。二年次、四年次の学生は、イラク攻撃の国際法的正当性といった具合に、法学部学生ともかわらない問題を考察します。二年次、二年次ゼミナーにおいては、三・四年次ゼミへの力をつけさせるところこれがゼミナーの目的もあり、一般的なトピックを素材として研究を行つてゐるところができます。前期内に性同性障害者に関する法状況を共通テーマとし、後期に死刑制度の存置の是非、美容整形に過失があつたときの損害賠

られることがあります。児童虐待について検討していくなかで、「はたして『母性』は自明のものかどうか」といった疑問も提示されました。

通常、法律や判例の解釈論に関心を有するわたしが、学生たちの鋭い指摘から学ぶことが多くなる時で

ます。まだ不十分ですが、オシロスコープ、スペクトルアナライザ、分光器、高周波レシーバなどの測定機器があります。

卒業研究では、本や文献等で学び、目的の装置やシステムを作つたり、測定したりします。何回か失敗を重ねて、それを解決していく課程を大事にします。またゼミでは、携帯電話通信局の見学等を行つています。

近藤ゼミでは、通信と光に関わることを取り扱っています。エレクトロニクスの急激な進展により、情報通信は大きく変化し、移動通信に特化した無線通信と大容量の特徴を持つ光ファイバー通信に変わりつつあります。

ゼミ全体では、「独立した情報端末をどこかに作り、通信方法を工夫し、情報をゼミ室に集める。」が目標です。このため、独立した装置の電源として、太陽光発電、風力発電も行つていています。

具体的なテーマは、「地上波デジタル放送」「大学構内での無線LAN」「携帯電話の新しい応用」「無線MANの実用性と将来性」「大学での太陽光発電」「集光による太陽光発電」「携帯電話の電界強度」などです。太陽電池は、光と電気の関係をまなぶ入りください。

情報システム学科 近藤 進ゼミ

情報の請求および子供たちをとりまく環境について検討しました。トピックが身近なのでしょうか、あるいは「法律問題相談番組」の影響でしょうか、ときに議論が白熱し、与えられた時間の枠組みを越えて議論が続け

ります。児童虐待について検討していくなかで、「はたして『母性』は自明のものかどうか」といった疑問も提示されました。

通常、法律や判例の解釈論に関心を有するわたしが、学生たちの鋭い指摘から学ぶことが多くなる時で

ます。まだ不十分ですが、オシロスコープ、スペクトルアナライザ、分光器、高周波レシーバなどの測定機器があります。

卒業研究では、本や文献等で学び、目的の装置やシステムを作つたり、測定したりします。何回か失敗を重ねて、それを解決していく課程を大事にします。またゼミでは、携帯電話通信局の見学等を行つています。

近藤ゼミでは、通信と光に関わることを取り扱っています。エレクトロニクスの急激な進展により、情報通信は大きく変化し、移動通信に特化した無線通信と大容量の特徴を持つ光ファイバー通信に変わりつつあります。

ゼミ全体では、「独立した情報端末をどこかに作り、通信方法を工夫し、情報をゼミ室に集める。」が目標です。このため、独立した装置の電源として、太陽光発電、風力発電も行つていています。

具体的なテーマは、「地上波デジタル放送」「大学構内での無線LAN」「携帯電話の新しい応用」「無線MANの実用性と将来性」「大学での太陽光発電」「集光による太陽光発電」「携帯電話の電界強度」などです。太陽電池は、光と電気の関係をまなぶ入りください。

情報文化学科卒業論文中間発表会、開催される

情報文化学科三年 穂野 貴子

十一月八日、四年次の卒業論文中間発表会が開催され、私は役員として参加した。今年度からカリキュラムが変わり、今までとはゼミ単位による自由参加だったが、全ゼミ全員参加となつた。前年までとは違い、人数も増え、これまでとは違う発表会を三年次生の役員で運営進行した。準備も夏休み前から始め、何回も集まり、地域住民の呼び掛けや近隣にポスターを貼つて宣伝活動もしてきました。毎週集まって準備を進めることや発表会当日も「日中報告を聞いているのはとても大変だった。しかし必ず卒論を書くときがくるので、そのときのためにいい経験ができたと思う。

また、この中間発表会は私にとって初めての観となるものだった。卒論のテーマは色々あり、関心を持ったもののが多かった。例えば、安楽死と尊厳死というものが多かった。例え、安楽死と尊厳死といふものが別々に発表したものだ。以前講義でなく安楽死をテーマとした人と尊厳死をテーマにした人が別々に発表したものだ。以前講義で安楽死といふものについて教わったのでとても関心があった。どちらも死をテーマにして、自分

で自分の死を選択できるものである。日本は安楽死を行うことに賛成ではなく、実行することに条件がいくつか課せられており、「つでも条件を満たさないと、立候合った医師が逮捕される場合がある。日本とは逆に、安楽死を尊重している国では、死は自分で決めるものとしている。また、尊厳死についても安楽死と似てしてこれ以上つら治療を続けるのなら、静かに死を待ち、好きなことをしてそのときかかるのを待つというものである。尊厳死については安楽死ほど知識がないので詳しいことはわからないが、決定的な違いは自分から薬を飲み、死を招くことと自然な死を待つことである。もつと深く調べていけば違いがわからなくなるかもしれない。

こういった内容の濃いものを一から詳しく調べる」とは容易ではない。それをまとめ、発表することは容易ではない。それをまとめ、発表することは、今後の生活や学習、卒業研究を手掛けようとしている人達にとって良い参考となると同時に、良い刺激を与えてくれたのではないか。



企業懇談会

今年も「1月5日(水)、ホテル新潟に於いて「企業懇談会」が開催され、県内外から300名の方々の参加をいたしました。大変盛況となりました。

この懇談会は、学生の就職活動支援の一環として企業の代表者や人事担当者を招き、本学をじ理解いただいと同時に、就職活動への協力に対する感謝の会として毎年秋に開催しています。当口は第一部として学長武藤輝の挨拶、各学科長による学科説明、就職指導委員長による就職状況説明後、特別講演としてエコノミスト原田和明氏より「今後の景気と中小企業の対応」について講演をいたしました。

引き続き第2部として、懇親会が三越新潟店長岩井幹雄氏の乾杯の発声で始まり、教職員は名刺

交換活動がスタート

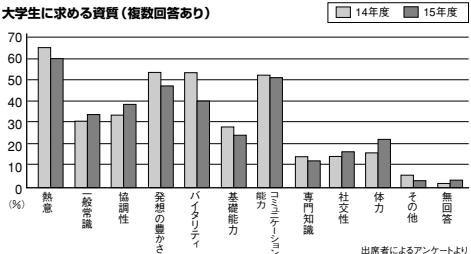
3年次生の「父母へ」

3年次生の就職活動が年を明けると本格的にスタートします。大学主催の就職ガイダンスも10回のうち8回が終了しました。

今年は就職ガイダンス以外に後期の水曜日を利用して「マイセミナー」「スーパー・マーケット勉強会」「卒業生による企業説明会」等、学生が今後の就職活動をスムーズに進められるようサポートして参りました。学生はガイダンス等を通じて「就職に対する心構え」が徐々に出来つつあると感じます。

1月からは、本格的な就職活動に入る前のラストスパートとして、個別面談、模擬面接、学内合同企業説明会を実施いたします。

そして、いよいよ2月から就職活動の本番を迎えます。就職委員会をはじめ、教職員一體となつて学生をサポートして参りますが、最も重要なのは学生ひとりが最後まで「戦う抜く」強い気持



りです。就職を決めるための、幾つかの要点を記します。

- (1) 自分の適性、希望を明確にする(自己分析)。
- (2) 業界研究、企業研究をする(ヒアリング、資料請求等をしつかりする)。
- (3) モラル、マナー、エチケット等をしつかりする(ビジネスマナー)。
- (4) 積極的に合同企業説明会に参加及び会社訪問をする。
- (5) 積極的に採用試験を受験する。
- (6) 簡単に就職は決まりません。原因を考え、次に生きかす。最後まで粘り強く活動する。
- (7) 早めに就職課等に相談する。

以上が就職決定までの道のりです。これから初めての経験で不安なことはかなりだと思います。どうぞ父母の皆さんから是非就職活動を応援し励まして下さいますよろしくお願い申し上げます。

就職課は、学生の就職活動を支援するためにあります。心配事やわからない事、どんな些細なことでも遠慮せずに相談するよう併せて、ご指導ください。

を片手に企業様の名刺を回り、卒業生採用のお礼や次年度の採用計画等についての情報収集に汗を流していました。

内定者

[内定先] 造船株式会社

情報文化学科4年 興梠 総美

[内定先] 新潟ゼロックス株式会社 情報システム学科4年 小林 渉

私は3年次生の一月頃、周囲の雰囲気に流される様に漠然と就職活動を始めました。会社の資料を集めたり、試験を受けたりしていましたが、その中でずっと、私は何か違和感を感じていました。就職活動を始めて2ヶ月経った頃、その違和感は何かという事をようやく考え始め、やつと「私は中国留学で得たこの語学力を活かせる仕事がしたいんだ」と思い当たりました。それを先生に相談し、その時にある中国関係の仕事を紹介して頂き、4月からついで働けることになりました。結局私は、自己分析をするのが遅かったのです。これから就職活動をする皆さんは、是非、早めの自己分析を心掛けて欲しいです。自分が何をしたいのか、まずはそこからです。就職活動は何ヶ月も続くものですし、疲れることも減らすこともあると思います。そんな時は、友達だけじゃなく、就職課の方や先生、カウンセリングも利用してみて下さい。気分転換も時には必要ですよ。

（実習先）ホテル新潟 情報システム学科3年 高橋 涼

私が数ある学外実習候補の中からホテル新潟を選んだのは、バイトで培った自分の接客サービスのセンス・能力が、接客業の代表格とも言えるホテルで通用し、生かせ、そして楽しめるかを試したかったためである。

初日に「1日の時間、2週間の実習を行います」と言われたときは、気合を入れて髪を短く切った自分でも正直引けをとったが、終わってみると達成感に溢れた。宴会、宿泊レストランなど、各部を体験させていたいたが接客業に携わる人にとってはやはり入なまきがよく、人に対して優しさが滲み出ている人が多かつたため、2週間も長い期間だつてのんびり実習を進めることができた。

この実習によって得たものはテープルマナーと自信である。バイトによって得た「マニエラ・シヨン」能力をこのホテル新潟の実習によって再認識し、この実習で得た経験を織り交ぜ磨きをかけ、そしてこの能力を財産にしていくたい。

（実習先）FM新潟 情報文化学科3年 菅家 知子

私が就職活動を始めるにあたって一番考えたことは、自分が将来何がやりたいのか、そして自分が今ができるのかを考えた。今まで自分自身をよく考えたことのない私は、正直むずかしく無いを感じていた。つまり、就職活動のスタート時点では決して良い状態ではなかった。

就職活動を進めていくに従つて、何回も自分の事を見直し、合同説明会などで様々な業種の話を聞いていくうちに自分が本当にやりたかった業種や職種はこれなのだということが次第に分かってきた。今では「一番やりたかった業種や職種が内定先に決まり、本当に良かったと感じている。後輩に対してアドバイスとしては、まず自分自身を見直すいい機会なので、時間をかけて自分といつものを見直します。そして、様々な人の話を聞き、本当にやりたい仕事は何なのかを考えましょう。必ず希望した仕事に就職で挑むのは必ずあります。

FM新潟は女性がとても活躍している職場であり、一人ひとりがアイデントライドを持っています。誰に対してもきちんとお話し申します。

■ ■ ■ ■ 本校の提携校 ■ ■ ■ ■

■夏期セミナー



>>> 北米コース

アルバータ州立大学

カナダ・アルバータ州の州都エドモントンにある総合大学。
[http://www.ualberta.ca/]

■派遣留学



>>> ロシアコース

極東国立総合大学

19の単科大学と約40の学部を持つロシア極東最大の総合大学。留学生も多く、外国人用の特別なフロアを設けるなど治安にも留意されています。 [http://www.dvgu.ru/]



>>> 中国コース

北京師範大学

北京大学、精華大学と並ぶ中国の名門大学で、多くの学部や研究所を有する総合大学。北京市内で、社会見学や日常生活にも便利です。 [http://www.bnu.edu.cn/]



>>> 韓国コース

慶熙(キョンヒ)大学

首都ソウルにある開校50周年を迎えた名門私立大学。10学部16大学院を持つ総合大学で、外国人向けの韓国語教育で高い評価を得ています。 [http://www.kyunghee.edu/]



>>> アメリカコース

ノースウェスト・ミズーリ州立大学

アメリカ中西部カンザス・シティから車で1時間半くらい、静かな学園都市メリーヴィルにある3カレッジ22学部の総合大学。 [http://www.nwmissouri.edu/]

派遣留学・夏期セミナー

本学では、国際教育の一貫として、学生の留学を強く奨励しています。情報文化学科の『派遣留学制度』及び情報システム学科の『夏期セミナー』共にカリキュラムの一貫として実施していますので、留学をしても4年間で卒業することが可能です。尚、参加者には奨励金が給付されています。

[スケジュール(予定)]

2003年

11月 説明会(夏期セミナー カナダ)

12月 説明会(派遣留学)

2004年

1月 参加仮申込・参加学生最終決定
(派遣留学 アメリカ)

4月 参加仮申込(派遣留学 ロシア・中国・韓国)
履修登録(参加申込)・事前研修開始(夏期セミナー カナダ)

5月 参加学生最終決定・事前研修開始
(派遣留学 ロシア・中国・韓国)

6月 参加書類の提出

7月 奨学金授与式・歓送会参加費用の納付
8月 カナダ夏期セミナー開始(9月帰国)

アメリカ派遣留学開始(9月帰国)

韓国派遣留学開始(12月帰国)

9月 中国派遣留学開始(2005年1月帰国)
ロシア派遣留学開始(2005年1月帰国)

Let's Try!

公開講座

「情報システム持論」

本学情報システム学科(3年次以上)を対象とする授業の講義部分を一般に公開いたしました。

〈第1回〉

日 時：2003年10月29日(水)
14:50-16:20 (90分間)

テーマ：小須戸町における情報化施策と課題
講 師：小須戸町 総務課副参事 加藤正樹氏

〈第2回〉

日 時：2003年11月5日(水)
14:50-16:20 (90分間)

テーマ：ソフトウェア産業の動向と課題
講 師：(株)ソネット 代表取締役 野中一克氏

〈第3回〉

日 時：2003年11月12日(水)
14:50-16:20 (90分間)

テーマ：GPS測位システムとモバイルコンピューティング応用
講 師：東海大学非常勤講師・元本学教授 工学博士 稲宮健一氏

〈第4回〉

日 時：2003年11月26日(水)
14:50-16:20 (90分間)

テーマ：地上波デジタル放送と地方局の対応
講 師：(株)新潟放送メディア事業局 メディア事業部長 梅津雅之氏

〈第5回〉

日 時：2003年12月3日(水)
16:30-18:00 (90分間)

テーマ：ソフトウェア開発の定量化手法－特に生産性と品質の問題に関する
講 師：(株)構造計画研究所 取締役 上席執行役員 味生 威氏

「その後」が表題に含まれています。また、後者の招

一般発表の他に地域に活動拠点を置く企業関係者による招待講演も予定され、「インターネット・ビジネスその後」へ躍進する有機米」として加茂有機米生産組合代表の石附健二氏による講演と「小出郷

の広域情報化について」として有限会社システムサポート社長の佐藤徳子氏による講演も行われました。前者は大学ができる3年目に本学で同研究会が開催された時に発表した内容の続きという意味で「その後」が表題に含まれています。

このように学会活動などに参加することにより、最新の学術情報を触ることができるとともに、全般的な情報を取り巻く動向も理解できるはずです。



第85回情報システムと社会環境研究会 本学を会場に開催

情報システム学科教授 高木 義和

待講演の演者は本学の学生でもあり、地元小出郷の情報化プロジェクトの実状と問題点の指摘からなる講演でした。

このような学会活動などに参加することにより、最新の学術情報を触ることができるとともに、全般的な情報を取り巻く動向も理解できるはずです。

新潟中央キャンパスでは初めての学術活動が新潟中央キャンパスで開催されました。会の開催でしたが、今後もこのような国的な情報を取り巻く動向も理解できるはずです。

新潟中央キャンパスで開催される機会があ

る場合には会員以外の方でも参加が可能

です。そこで、興味がある方には、会員以外の方でも参加が可能

る学会が開催されることがあります。学術活動が新潟中

央キャンパスで開催される機会があ

る時には参加する

と良い刺激になる

と思います。(会員)

必要ですが、

は必要ですが、

平成15年度紅翔祭を終えます

紅翔祭実行委員長 桑田 和征

平成15年度紅翔祭は皆様のご協力のお陰で盛大に開催することができ、無事に終えることができました。

今年の紅翔祭は本学創立10周年、記念すべき第10回目という事で、様々な事に挑戦し、多くの時間を費しました。2日間という短い期間の中でもどれだけお祭りを盛大に行なうことができるか。今年は実行委員が未経験者ばかりで何を行うにおいても苦難の連続でした。その中で先輩方のアドバイスや関係者の方々にご協力を仰ぎ、多彩なイベントを行うことができました。

今年は昨年行い大好評を博したライブイベントにおいて、地元FM新潟さんとの共催という形で、アーティスト“Sowelu”的ライブを行いました。当日は700人を越す来客があり、大盛況で終えました。また父母同窓会の皆様主催の永六輔氏の講演会では800人の来客があり、こちらも大盛況で幕を閉じました。キャンパスミーティングにおいても昨年以上に好評だったと思います。

紅翔祭実行委員長として僕は未熟だったかも知れません。仲間の大切さ。僕は仲間に支えられ、実行委員長という任務を無事遂行する事ができたと思います。本当に感謝しています。

最後に、紅翔祭を終え、紅翔祭実行委員会、学友会執行部を代表し、ご寄付いただきました企業、教職員、なつびに温かいご協力を頂いた全ての方々にこの場を借りて心よりお礼申し上げます。是非来年も宜しくお願い致します。



ビジネススマッシュを終えます

情報システム学科4年 多賀 祥治

昨年に引き続き今年もビジネススマッシュに参加しましたが、今年は昨年以上に大きな収穫がありました。それは研究発表という内容にとどまらず、よりビジネス的な側面を持つて参加することが出来たこと。そして実際に企業と今後につながる具体的な話が持てたことです。

イベント開催中において、本研究内容に似たシステムでビジネスをされておられる企業と出会い、実際に今後協力関係を構築維持していくことで話がまとまつたことや、他にも一社事業の組合を設立されお仕事をされている方や個人でお仕事をされている方もとも情報交換ができたこと。さらに就職に関しても、県外企業の方から積極的な話を受けることができ、実際に次の企業合同ガイダンスに参加したいとの話を頂くなど、イベントを通して多くの方々と情報交換を行なうことができました。

こうしたやりとり、つまり産・官・学・民が協同して産業を盛り立てていくという姿は本来なくてはならないのかもしれません。特にこの新潟県においては、これらの各要素が相互に協力し合うことで互いの不足するところを補足し合い、秀でたものはさらに活かしていく。そうした連携が、今後の産業の発展においても重要であると考えます。

情報化時代と言われば、世間では「ネットワーク」「共有」というキーワードが浸透してきましたが、これは単に知識や思いを分かち合っただけではなく、共有し合うことで新しい財産・価値を生み出す、しかもそれは計算の計算ではなく掛け算の計算により生み出されるものであると思います。

そういう意味でも、今回のビジネススマッシュの参加は非常に多くの情報を共有でき、そして今後に活かせるものを生み出すことができたと実感しています。この場を借りて心よりお礼申し上げます。



学事日程 2004

1月 8日(木)	授業開始
20日(火)	後期授業終了
21日(水)~27日(火)	後期定期試験
16日(金)	休講(センター試験準備)
17日(土)・18(日)	センター試験
2月 2日(月)	前期入学試験
3月 8日(月)	後期入学試験
15日(月)	～春期休業
23日(火)	卒業式
31日(水)	学年終了

平成15年度卒業式

日時 平成16年3月23日(火)
13:00~14:30
(受付12:00~)

会場 新潟市民芸術文化会館

平成15年度公認団体の主な活動成績

期間	団体名	大会名	開催場所	大会結果
4月11日	バドミントン	第47回北信越大学バドミントン選手権大会	石川県	男子1部昇格、女子1部優勝
4月19日	軟式野球部	平成15年度新潟地区大学軟式野球連盟春季大会	新潟市	全国大会出場決定
5月 3日	バスケットボール	第37回日本杯争奪北信越学生バスケットボール春季リーグ戦	福井県	3部A 2位
5月 4日	フィットネス研究会	第15回全日本ジュニアアームレスリング選手権大会	茨城県	男子ライト・レフトハンド+70kg 優勝
5月17日	陸上競技部	第77回北信越学生陸上競技校対選手権大会	新潟市	槍投げ幾野貴子優勝→全国へ
5月18日	フィットネス研究会	第28回新潟県パワーリフティング選手権大会	新潟市	佐藤 司 優勝、山本浩之 準優勝
5月21日	バレーボール	第34回春季北信越大学バレーボール選手権大会	石川県	2部リーグ3位
5月25日	バドミントン	第161回新潟支部バドミントン大会	新潟市	阿部ベスト4
7月 4日	陸上競技部	第72回日本学生陸上競技校対選手権大会	神奈川県	幾野貴子やりなげ全国18位
8月 6日	バドミントン	北信越バドミントン選手権大会	富山県	シングルス岡香織 優勝、ダブルス岡・西須ペア優勝
8月18日	軟式野球部	第26回全日本大学軟式野球部選手権大会	広島県	1回戦負け
8月24日	バドミントン	佐渡オーブンバドミントン大会	両津市	西須・最上ペア優勝
8月30日	陸上競技部	第47回北陸陸上競技選手権大会	福井県	小林・山之内・武田・笹谷4×400Mリレー2位
9月27日	バレーボール	第20回信越大学バレーボール大会	長野県	第3位
10月 5日	バドミントン	第51回田村杯・第16回市崎橋争奪バドミントン選手権大会	新発田市	女子シングルス 西須準優勝、岡ベスト4
10月11日	陸上競技部	第34回北信越学生陸上競技選手権大会	石川県	3000M決勝3位 笹谷俊和、槍投げ幾野貴子優勝
11月 3日	陸上競技部	柏崎陸上競技記録会	柏崎市	400M優勝 武田喜雄、5000M優勝 渋谷俊和 4×100Mリレー優勝 角山・本間・青柳・笹谷 スウェーデンリレー優勝 角山・石川・笹谷・武田 槍投げ優勝 幾野貴子 他入賞多数
11月 7日	バドミントン	第48回北信越大学バドミントン選手権大会	富山県	女子1部2位、男子1部3位
11月12日	バレーボール	第51回秋期北信越大学男女バレーボール選手権大会	新潟市	男子2部リーグ3位

大学見学

いつでもお気軽にいらしてください。

本年度も高校生を中心として、ご父母・企業・中学生等、約850名の皆様が来校されました。

来校された皆様には、学内(施設)の見学、体験授業等ご希望に合わせ様々な体験をいただいております。来校された皆さんからは、「大学を身近に感じることができた」「大学がより理解できた」等々感想をいたしております。

どうぞ見学等のご希望がございましたらご遠慮なくお問い合わせください。

来校者(順不同)

- 私立日本文理高校
- 県立小千谷高校
- 県立卷総合高校
- 豊栄市立光晴中学校
- 県立分水高校
- 県立出雲崎高校
- 新潟市立山の下中学校
- 県立荒川高校
- 県立新井高校
- 福島県立西会津高校

- 県立長岡商業高校
- 県立巻工業高校
- 県立吉田高校
- 県立村上高校PTA
- 県立三条東高校PTA
- 県立新潟東高校
- 県立寺泊高校PTA
- 県立村松高校
- 県立寺泊高校

体験授業の一例

●異文化理解

- 「韓国・北朝鮮を学ぶ」
- 「日韓文化の同質性と異質性—生活文化を中心として—」
- 「日本は極東か?日本海の名称はどこが問題—共生に向けた異文化理解とオリエンタリズム—」

●パソコン(情報処理)体験

- 「カレンダー作成」
- 「コンピュータを使って数学の問題を解いてみよう」
- 「シミュレーションソフトウェアを使っての仮想工場モデル」

学外講義・講演

上記の体験授業の他に中・高等学校、団体等からの依頼により学外での講義・講演も行っておりますのでお問い合わせください。

お問い合わせ
事務局総務課
025-239-3111



新潟中央キャンパス

951-8068 新潟市上大川前通七番町1169番
TEL.025-227-7111 FAX.025-227-7117

施設紹介(1~9階)

開館時間 月~金 9:00~20:00 土 9:00~17:00

学生はもとより、1階・2階は学外の方もご利用いただけます。是非、お近くにお越しの際にはご利用ください。

また、セミナー室、講堂など施設の貸し出しをしております。ご利用を希望される場合、詳細につきましては、新潟中央キャンパスにお問い合わせください。

9F ●講堂1 ●講堂2(計250名／机付での使用は210名)



8F ●セミナー室(4室、各20名) ●会議室(30席)

7F ●会議室(25席)

●バンケットホール(130席)

バンケットホール

6F ●セミナー室(5室、各20~30名) ●会議室(35席)

5F ●演習室(4室、各20~30名) ●卒業研究室 ●教員研究室

4F ●メディア演習室(5室、各14~40名) ●教員研究室



3F ●演習室(6室、各16~30名)

●PC実習室

演習室

2F ●情報・図書室 ●閲覧コーナー

●情報検索コーナー／無線LAN

●校友室「みづきサロン」 ●事務室

1200冊の図書が配架されており自由に閲覧できる他、貸出しあることもできます。

また情報検索用のパソコンも設置されており、常時インターネットに接続可能で学外の方も無料でご利用いただけます。



閲覧室

1F ●学生ホール ●資料展示コーナー

●カフェテリア「YOU&I」／無線LAN



カフェテリア「YOU&I」



JR新潟駅万代口より市内バス5分。本町下車徒歩1分。

アンケートにご協力ください。

新潟中央キャンパス内には、授業以外にも公開講座、講演会、資格取得講座及び産官学連携推進事業の開催等、地域社会に貢献することを目的としたエクステンションセンターを設置しました。

つきましては、同封のアンケートにご協力ください。

平成16年度 一般入試日程

◎詳細は募集要項をご確認下さい。

前 期	情報文化学科	35	95	16.1.6(火)～1.22(木)	16.2.2(月)	国語：国語Ⅰ・国語Ⅱ (いずれも古文・漢文を除く) 数学：数学Ⅰ・数学Ⅱ (数学Ⅱは、微分・積分を除く) 外国語：英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験会場で選択
	情報システム学科	60				
大学入試センター試験	情報文化学科	15	35	16.2.5(木)～2.13(金)		学科試験を課さず、16年度のセンター試験の成績で判定。全教科の中から2教科2科目選択 配点:各教科100点。3科目以上受験した場合は高得点の2教科2科目を合否判定に使用
	情報システム学科	20				
後 期	情報文化学科	10	25	16.2.20(金)～3.2(火)	16.3.8(月)	国語：国語Ⅰ・国語Ⅱ (いずれも古文・漢文を除く) 数学：数学Ⅰ・数学Ⅱ (数学Ⅱは、微分・積分を除く) 外国語：英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験会場で選択
	情報システム学科	15				

●本学の平成16年度入学者選抜試験が11月16日の推薦入試から始まりました。推薦入試の受験者数は昨年度比122%でした。

一般入試の日程は上記の通りです。願書等ご希望の際は本学学務課教務係までお問い合わせください。

新潟国際情報大学学務課教務係 TEL.025-229-3111 FAX.025-239-3690

新潟国際情報大学 学費特別給付奨学金

一般入学試験(前期)の成績により奨学金が給付されます。

情報文化学科	3番以内—I種	8番以内—II種	I種 授業料全額(年額650,000円)
情報システム学科	5番以内—I種	14番以内—II種	II種 授業料半額(年額325,000円)

卒業生の便り

新潟大学大学院 自然科学研究科 博士課程前期一年 石川 雅浩

情報システム学科 二〇〇二年度卒



母校、新潟国際情報大学を卒業して、早いもので一年の月日が過ぎようとしています。このような文章を書く機会に恵まれるとは、一年前には考えてもいなかったので驚いています。拙文ながら、簡単に近況報告と今後の予定を書いてみようと思います。

僕は今、新潟大学の修士課程に在籍し、来春卒業を控えています。大学院では、胸のレントゲン写真に関する研究を行っています。具体的には、レントゲン写真を処理して見やすくすることで医師の診断を支援しようという研究です。実は今、その成果報告として、2日後に学会を控え慌しい最中です。学会が終われば、一月には修士論文をまとめる期日が迫っておりまだ多忙な日々が続きます。研究は、うまくいくこともあります。しかし、なんといつも遣り甲斐があり、充実した毎日です。思えば、大学四年の夏、卒業研究を決められず迷っていた際に先生に勧めていただいたのが切っ掛けでした。当時は、こんなに長い付き合いになるとは夢にも思いませんでした。しかし、先生に根気よく教えていただき、手探りだった医用画像の世界の魅力に触れ、現在の進路を選択することになりました。今でも研究方針に迷った際には、よく相談にのってもらいたいアドバイスを頂いています。また担当では無かった多くの先生方にもご支援いただき、とても感謝しています。研究の話ばかりになってしましましたが、研究会を通して岐阜や東京を訪れる機会もあり、実はそれが良い息抜きになっています。見聞を広げる意味でも、そういう機会を増やしていくらと思っています。

今後の予定は、修士課程でやりきれなかつた目標を実現するため、博士課程に進学して研究を続ける予定です。研究題材も、レントゲン写真に限らず胸部CTやマンモグラフィなどの医用画像にも挑戦したいと思っています。日々学ぶ事が多く、不安もありますが卒業生として恥ずかしい事の無いようがんばりたいと思っています。

ようとしています。このような文章を書く機会に恵まれるとは、一年前には考えてもいなかったので驚いています。拙文ながら、簡単に近況報告と今後の予定を書いてみようと思います。

僕は今、新潟大学の修士課程に在籍し、来春卒業を控えています。大学院では、胸のレントゲン写真に関する研究を行っています。具体的には、レントゲン写真を処理して見やすくすることで医師の診断を支援しようという研究です。実は今、その成果報告として、2日後に学会を控え慌しい最中です。学会が終われば、一月には修士論文をまとめる期日が迫っておりまだ多忙な日々が続きます。研究は、うまくいくこともあります。しかし、なんといつも遣り甲斐があり、充実した毎日です。思えば、大学四年の夏、卒業研究を決められず迷っていた際に先生に勧めていただいたのが切っ掛けでした。当時は、こんなに長い付き合いになるとは夢にも思いませんでした。しかし、先生に根気よく教えていただき、手探りだった医用画像の世界の魅力に触れ、現在の進路を選択することになりました。今でも研究方針に迷った際には、よく相談にのってもらいたいアドバイスを頂いています。また担当では無かつた多くの先生方にもご支援いただき、とても感謝しています。研究の話ばかりになってしましましたが、研究会を通して岐阜や東京を訪れる機会もあり、実はそれが良い息抜きになっています。見聞を広げる意味でも、そういう機会を増やしていくらと思っています。

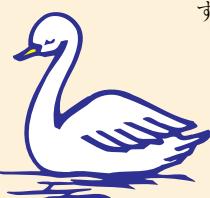
新潟で学校に来るのは、まるで旅行に行く気持ちです。ソウルのように毎日混んでいる地下鉄に乗らなくていいし、同じ電車の中で学校の先生や学生に会って楽しく話し合ううちに学校に着きます。また、学校では厳しい先生の姿ですが、飲み会の席では普通の友達のように自由に笑ったり、話しあったりする先生たちの姿がとてももうらやましいです。新潟に来てもう3ヶ月になりますが新潟での楽しい生活を一生忘れないと思います。大事なたくさんの思い出を作つてください。

たださうした広瀬先生と申先生 純粹な学生たち、毎日キムチを食べさせてもらっている食堂のおじさん、山本室長をはじめ事務の方々、本当にありがとうございます。

アフローヨンハセヨ

慶熙大学招聴講師

全美順(チヨン・ミスン)



湧 YUUGEN 源

編集後記に代え

学生の満足、地域社会の満足

情報文化学科助教授(広報委員) 高橋 正樹

内輪の話になりますが、広報委員会は学外の方に広く大学を知つていただくことを仕事にしております。この『国際・情報』誌もそのひとつの媒体であり、大学の活動内容をお伝えすることが大好きであります。ただ、どんなに広報を工夫しても、結局は、学生を身近に感じていただく最も良い方法だと思っております。そこで、学生の満足にとって重要なことは、学ぶ意欲を強くもつた学生にどれだけ教育の現場で応えることができるかだと思います。学生が大学に満足してくれれば、かれらがサポートになってくれるはずです。その意味で、大学とは基本的に教師と学生との学びの共同作業の場である、という原点に常に立ち返る必要があるように思います。

同時に、地域に根ざした大学という観点から、地域社会の満足も重要なことです。九七年に出版された『新潟からの提言—大学が地域を変える』(新潟日報社)を読むと、それまで新潟では、地域社会と大学がいかに遠かつたかと不満が示されています。本学では大学と地域社会との橋渡しをするために、開学当初から地域交流委員会を中心にしてきました。とくに開学時に地元自治体から多くの支援を受けた本学にとって、この地域交流とは地域社会へのお返しの部分だと思っています。中でも「パソコン講座」や「映画の中の市民社会」はお蔭様で好評を博してきました。とともに「映画の中の市民社会」はすでに五年目に入り、新潟県と新潟市の両教育委員会の後援を受け、シネウインドの協力を得て、地域社会と大学と結ぶ企画として定着してきました。毎年四回の連続で毎回百名近くの方にご参加いただき、新聞やテレビでも取り上げていただきました。これは地域社会に満足していた大いにいる証拠かと思います。

学生や地域社会の満足が大学にとっていかに大切かは、良い試合をしてファンを大事にすることであつ烈なサポーターを獲得しているアルビレックス新潟をみてもつくづく感じます。